



市民フロンティア



「自立と共生」を理念とした地域社会をめざし、自ら活動する人々を応援します

2019 年 2 月 25 日発行 通巻 85 号

社会からみた NPO への期待、 CS 神戸で出来ること

理事 佐藤友美子



CS 神戸は、ありたい姿である地域の「自立と共生」という目標に向かって、社会を支える新しい仕組みづくりにチャレンジしています。

社会の困りごとは時代と共に変化し、サポートのあり方、仕組みも一様ではありません。だからこそ、社会と近いところで、共に考え、共に活動することが必要です。しなやかに変化し続けることが社会に寄り添うことでもあります。

市民一人一人のボランティアな活動を基本として、指定管理や企業との連携など、緩やかな協働のあり方はとても現実的で、魅力的です。異質な文化の出会いが、パワーを生みだし「地域で支え合う」を可能にします。大切なのは、参加した人や組織が元気になることです。チャレンジすれば、成長実感を自分のものにできます。

普通の人が一歩を踏み出すのはとても勇気のいることです。でも、半歩なら多くの人が踏み出せます。中間支援というのは、多くの人の半歩を集めて、大切に育てていく仕事だと知りました。

CS 神戸の大きな役割は、参加の仕組みを工夫し、様々な人を巻き込み、変化し、歩み続けることです。理想はとても高いですが、活動は地道です。時間はかかっても、「自立と共生」への確かな一歩に違いありません。

認定 NPO 法人、初めての更新！

理事長 中村順子

認定番号：神戸参市協第 1160 号
認定更新日：2018 年 7 月 2 日
(神戸市市民協働課 重課長とともに)



認定 NPO 法人を取得して 5 年が経過しました。この制度は、NPO 法人の中でも“寄付者・寄付額の割合、適切な情報公開、運営組織および事業活動が適正等”一定の条件をクリアした NPO 法人に認定され、税制控除等の優遇を受けて、資金面から活動の活性化を図るものです。5 年毎の更新時には所轄庁の監査を受けなければならない、今回は初めての更新でしたが、3 日間にわたる詳細なチェックを経て無事更新されることになりホットしました。

翻れば、この厳しいプロセスこそ、公益に資する法人が通過すべき内容であり、組織力向上に直結していることを実感しています。

多忙な日常活動でつい後回しになりがちな組織運営上の案件や説明に足る書類の整備等は、このように第 3 者の視点による一連のチェックを経ることで、組織に緊張と改善をもたらします。税制上の優遇を受ける法人にとって必須の要件です。

神戸市における認定 NPO 法人はたった 21 法人であり、全体の 3% 弱に過ぎません。もっと多くの認定 NPO 法人が生まれ、企業や市民からの寄付が受けやすくなることで、NPO の基盤整備が進むことを心から願っています。

第 3 回理事会を開催しました



2018 年 10 月 18 日（木）、CS 神戸第 3 回理事会を開催しました（委任状含め理事全員の 7 名が出席）。主な議題は「上期事業報告と中期決算」と「下期事業計画および修正予算」で、いずれも審議の結果、承認されました。また、新たな事業として検討している案件の議論もおこないました。参加した理事からは多様な視点から意見があがり、今後の検討課題も含めて活発な意見交換がおこなわれました。（長井）

毎年恒例「新春のつどい」開催レポート

～ 50 名を超える会員・ボランティア・関係者の皆さまとの宴 ～

いつもお世話になった皆さまに感謝をお伝えする恒例のイベント「新春のつどい」を 2019 年 1 月 11 日（金）に開催しました。会員の皆さまはもちろん、CS 神戸に縁のある方々とともに、スタッフ含め総勢 48 名が参加しました。個別にお会いすることはあるものの、業務を離れてゆっくりお話ししたり、お名前は存じ上げていても顔は存じない、といった方々が一同に会する貴重な機会です。星野副理事長の乾杯の音頭とともに飛田事務局長のなめらかな進行で和やかにすすめられました。食事と歓談の合間には、CS 神戸の 2018 年を振り返る「プロジェクトレポート」の発表とともにスタッフおよびボランティアさん、そして



ご協力いただいた関係者の皆さまを紹介しました。笑顔やユーモアでご挨拶をいただいた関係者の皆さま、ありがとうございました♪
そして今年のゲストは**福田重雄**さん。CS 神戸事務所前の通路から聞こえてくるのびやかな尺八の音につられてスタッフがご挨拶させていただいた縁で、今回の尺八演奏が実現しました。さらにさらに！松下監事もご自身で持参されていたハーモニカを取り出すなど、うれしいハプニングも！



そして終盤は毎年全員真剣勝負の「じゃんけん大会」をおこないました。今年も CS 神戸事務所前で丹波野菜販売をおこなっているパンチファームさんの特別セットをはじめとした素敵な賞品をそろえ、全員立ち上がったの大盛り上がり！！CS 神戸からの“お年玉”を Get できた皆さま、おめでとうございました。
最後は中村理事長から 2019 年に向けた挨拶をおこない、参加者の皆さまの笑い声と笑顔に包まれながら、会はお開きとなりました。



2019 年の CS 神戸も様々な活動を通じて、皆さまとともに「自立と共生」の地域社会をつくってまいります。これまでの事業も、そしてこれからも事業も、引き続き応援をよろしくお願い致します（長井）

プロジェクト密着レポート！

NPO 法 20 年地域フォーラム

vol.7



2018 年は、特定非営利活動促進法（NPO 法）が成立して 20 年を迎えました。兵庫県の NPO 法人格認証第一号※として活動をしている CS 神戸が使命を持って、この 20 年で「出来たこと／出来なかったこと」を振り返り、さらに次の 20 年に向けて何ができるか？を他の団体とともに振り返りました。さて、その成果は・・・？（※CS 神戸を含め、同時に 4 団体が取得）

・・・で、「NPO 法」ってなに？何のための法律？

1998 年に成立した「特定非営利活動促進法（NPO 法）」のことです。NPO 法が成立するまでは、公益・非営利の活動を行う団体は、かなりの財産と活動実績、さらには主務官庁による許可によって、ようやく社団法人や財団法人の法人格を得ることしか出来ず、多くの団体が法人格のない任意団体でした。しかし、法人格を持っていないと、事務所や電話をはじめとした、活動に必要な契約を取り交わす場面で代表者が個人契約をしたり、公的機関からの委託事業を受けられない、といった不都合があります。そこで、NPO 法の第一条では、「この法律は、特定非営利活動を行う団体に法人格を付与すること等により、ボランティア活動をはじめとする市民が行う自由な社会貢献活動としての特定非営利活動の健全な発展を促進し、もって公益の増進に寄与することを目的とする」と定められ、特定非営利活動を行う団体が届出に近い認証と言う方法で法人格を取れるようになりました。

NPO 法人格取得の感想 （事前アンケートより抜粋）

家族会が NPO 法人格を持てたことは大変大きな意味があった。委託費を活用し常勤職員を置くことができ継続した支援につながった。

任意団体のときより信頼ある態度で接してもらえるようになった。法人格ができる前は任意団体として社会を支えるしかなかった。行政も社協も“どうぞ勝手に”の時代だった。世間に認められ始めたころによく NPO 法人制度ができた。



アンケート＆フォーラムを開催！

この 20 年で出来たこと・出来なかったことを振り返り、今後の方向性を議論するため、事前アンケートとフォーラムを実施しました。主題は「つながりあう（共助）社会をつくるため、わたしたちができること」。兵庫県内を 3 つの地域に分け（阪神・丹波・神戸／姫路・淡路／但馬）、NPO、行政、企業など 24 名のメンバーで、地域別の実行委員会を組織しました。



分科会の様子

77 団体 125 名でした。（飛田）

事前アンケートでは主に、①非営利セクターとのつながり、②地域団体とのつながり、③行政・議会とのつながり、④企業とのつながり、などつながりの対象別に、「今取り組んでいること」「今後とりくみたいこと」「障壁となっていること」について記述式で回答いただきました。そして事前アンケートの結果を踏まえて、阪神・神戸・丹波地域（11/9）、播磨・淡路地域（11/13）、但馬地域（10/26）にそれぞれフォーラムを開催。地域の実情に合わせて、鼎談、キーノートスピーチ、分科会などを実施。現在の立ち位置を確認し、課題や展望を議論しました。なお、事前アンケートの回答は合計 143 団体、フォーラム参加は



播磨・淡路フォーラム



阪神・丹波・神戸フォーラム

報告書を発刊しました！

『NPO 法 20 年 兵庫・地域フォーラム報告書～つながりあう（共助）社会をつくるため、わたしたちができること～』を発刊しました。各地域の実行委員長によるフォーラムのまとめや宮垣元慶応大学教授の総括、外部協力者のコラムなど 150 ページの大作です。資料編では、フォーラムで紹介しきれなかった、事前アンケートの回答をすべて掲載しました。現在の NPO の担い手たちがどのようなことに誇りを持ち、どのようなことに戸惑いを感じているのか、汗や体温が伝わる貴重な内容となっています。ぜひ手に取ってご覧ください。ご関心のある方は CS 神戸まで。



NPO の現場の声がギッシリ！
つまっています



ダイジェストニュース

～ 動きのあるプロジェクトをピックアップしてご紹介！ ～

【市民活動支援部】

●**生きがいごとサポートセンター神戸東（ワラビー）**・・・今年度はシニアの新しい働き方「プラチナワーク」（シニアがグループをつくり、交替で短時間の有償ボランティアをする）のトライアルを行い、来年度からはこども園での活動が本格的に始まります！シニアの皆さんがいつまでも働き続けることができるチーム制による有償ボランティアの仕組みを、これからも広げていきたいと思ひます♪（山村）

●**生活支援・介護予防サポーター養成研修／グループリーダー研修**・・・東部・中部・西部の各ブロック研修が1月上旬にそれぞれ終了。現在フォローアップに入っています。いくつかの居場所や生活支援のグループが生まれそうです。グループリーダー研修では、修了生による自主グループ「やってる会」が発足しました。（飛田）



●**居場所事業**・・・東灘区の居場所運営団体とともに、区内の民間事業所での情報ラック設置に取り組んでいます（スーパー、美容院、薬局など）。また、兵庫県立大学と協働で居場所利用者実態調査を実施。2月に報告会を開催、3月末に報告書にまとめます。（飛田）

【地域活動事業部】

●**JR 住吉駅前駐輪場**・・・昨年8月スタートまで準備作業が大変だった子育て世帯支援割引制度ですが、やっと軌道に乗り、1月までの6ヶ月利用者累計は1日券・定期券合わせて2,800件。月でいうと470人の方に利用して頂く様になっています。利用者アンケートでも制度そのものやスタッフの対応への評判はよく、今後はチャイルドシート自転車専用エリア設置などアンケートでの要望サービスの実現をすすめていきます。（柳井）

●**まちづくりスポット神戸**・・・40代～70代の男女11人のメンバーが、ランチ神戸学園都市の植栽管理や在来種の保護に取り組むグリーンクルーの活動がスタート。新たな社会と関わる場、つながる場となり、メンバーそれぞれが、自分の持ち味を活かし、仲間と工夫し助け合い、生き生きと活動しています。（向山）

●**東灘区民センター小ホール**・・・2019年3月をもって、東灘区民センター小ホールが児童館への拡充のため閉館します。2006年より地域文化活性化事業など、様々な文化に関わる多目的な会館として歩んでまいりました。3月10日（日）には当ホールを支えてくださった皆さまにご来場いただき、ささやかながら、「さよならパーティ」を開催します。（兵頭）

●**生きがい活動ステーション**・・・今年度は六甲道を飛び出して、兵庫勤労市民センターにて不定期に出張サロンを開催しています。また兵庫区のお寺と連携して居場所コーディネーター養成講座も実施中。春以降の立ち上げを目指しています。（伊藤）

会員・寄付

～ 応援いただき、ありがとうございます！ ～

【会費】

(2018年6月1日～2019年1月31日) ※敬称略

松下忠義、新庄達也、富田妙子、松元隆平、日下恵子、直田春夫、石尾陽一、尼川洋子、中村保佑、医療法人明倫会宮地病院、林祐介、大西洋助、朴徹雄、落合弘、坂本登、細見典子、広井かほる、朝山日出夫、藤本傑士、伊谷須美子、岡田雅幸、氏家都子、子川幹男、津田久雄、宮下隆二、小林るみ子、赤須治郎、務川悦孝、NPO法人福祉ネットワーク西須磨だんらん、重政和洋、安元邦夫、山内延浩、小林義徳、吉本隆光、NPO法人阪神パソコンネット、畑中進、村戸靖男、岡部記代子、與口修、樋口孝子、古結洋子、植戸貴子、カタオカネットワーク、龍田昇、林律子、島田誠、蒲田尚史、鷹濱百合枝、長澤マリ、江口聰、大和三重、西村尚士、NPO法人インクルひろば、大西佐知子、菅祥明、井手口誠、大野利恵、株式会社神戸サンソ、株式会社まんぼう、匿名の方

【寄付】

島田誠、嶋田征彦、久米路子、NPO法人婚活せわやき隊、朴京守、中村順子、法貴永治、福田眞理子、定免久美子、小林義徳、KOBÉカード協議会、足立勝、人羅亜矢子、向山良子、飛田敦子、中村順子、大和リース株式会社、商船港運株式会社、有限会社神輝興産、株式会社シカタ、郵船不動産株式会社、匿名の方

会費継続をお願いします 市民活動を共に支えてくださる賛助会員（個人・団体）の方々を募集しております。

【会費】

個人会費：3,000円／年

団体会費：10,000円／年

【振込先】

名義：特定非営利活動法人コミュニティ・サポートセンター神戸

郵便振替 00950-2-144205

2019年度も継続頂ける方は、**4月1日以降**にご入金頂けると幸いです！ぜひよろしくお願い致します！

認定 NPO 法人 コミュニティ・サポートセンター神戸 (CS 神戸)

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町 5-2-2 ビュータワー住吉館 104

TEL：078-841-0310／FAX：078-841-0312／E-MAIL：office@cskobe.com

発行人：中村順子 編集人：長井明子

2019年2月25日発行 通巻 85 号

編集後記 「一月行く、二月逃げる、三月去る」ということで、瞬く間に日々が過ぎています。来年度もどうぞよろしくお願いします！（N）